

神奈川県 JA横浜

地域の活性化

女性農業者講座で
約300人の女性担い手を育成

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する
3つの「シンカ」

女性農業者を担い手に 基礎から技術・経営を学ぶ場を提供

神奈川県のJA横浜は、地域農業の持続的な発展に向け、女性を地域農業の担い手として位置づけた人材育成講座「女性農業者講座」を2006年から実施しています。農業人口が減り続ける中、20年間で約300人が講座を受講し多くの修了生が実際に就農するなど、地域農業を支える重要な担い手として活躍しています。

「女性農業者講座」では、座学と圃場（ほじょう）実習の独自のカリキュラムを展開しています。現在は、Uターン新規就農者と合同で運営されており、今年度は約20人が受講しています。

JA横浜の「女性農業者講座」の概要

設立	2006年度
受講人数	約300人
内容	講義と野菜を中心とした圃場実習
開催頻度	毎月1～2回。年間計15回程度

座学と実習の連動が強み 専門家による伴走支援

同講座の最大の特徴は、座学と実践的な実習を組み合わせた内容の濃いカリキュラムです。受講生は午前中から夕方まで、ほぼ丸1日をかけて栽培管理や出荷調整、肥料や農薬の使い方、農業経営の基礎などを学びます。講座は毎月1～2回、

年間のカリキュラム例

4～8月	夏野菜の定植、管理、収穫や 土壌分析結果の見方、農業の 使い方
9～12月	秋冬野菜の定植、管理、収穫や 果樹の栽培管理、収穫
1～3月	土づくり、農業経営の基礎



畑で熱心に定植作業の手順を学ぶ受講生たちの様子

年間15回程度開かれます。2026年は、特に加工品に関する講義を充実させています。

実習の場は、JA横浜の「きた総合センター」（横浜市都筑区）に隣接する専用の圃場です。ナスやトマト、キュウリ、キャベツといった地域で親しまれる主要な野菜を中心に栽培を実践します。また、地元の果樹農家で現地実習も行います。

指導に当たるのは、県の農業技術センターなどで技術の研究に携わってきた経験豊富な営農技術顧問です。専門知識に基づいた丁寧な指導に加え、同じ立場の受講生同士が気兼ねなく質問や相談ができる環境が整っており、「参加しやすい」と高い評価につながっています。

2026年は「国際女性農業従事者年」 女性がけん引する主体へ

JA横浜は、地域農業における女性の役割や存在感を、これまで以上に高めていきたいと考えています。女性農業者は地域において、生産、出荷調整、直売、加工、地域とのつながりづくりなど、さまざまな場面で役割を担っています。今後は「支える存在」ととどまらず、農業経営や地域農業をけん引する主体として活躍できる環境づくりを進めていくことが重要だと考え、後押ししていく方針です。また、先輩女性農業者の活躍を積極的に発信し、ロールモデルを示すことで、女性の視点や感性を地域農業の新たな価値創出へとつなげ、より女性が活躍する地域農業の実現を目指しています。



地域農業の担い手として期待される受講生たち

問い合わせ JA全中 JA組織・経営対策部 JA改革支援課 ☎03-6665-6040 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた
動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行／JA全中（一般社団法人 全国農業協同組合中央会）



JAグループ

耕そう、大地と地域の未来。